

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3611510227
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームはなみずき
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地 (電話) 088-672-1022

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 11 日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤:13人、常勤換算:① 6.2人 ② 5.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:3,000円、その他:実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 2 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人十全会 井上病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR板野駅近くに立地し、役場やスーパー、あすたむらんど、公園・図書館・文化財資料館等が近くにある。利用者は家庭的な雰囲気の中で落ち着いて暮らしている。職員はそれぞれ短期の目標を立てて自己評価し、それを上司や管理者が再評価し、個人のレベルアップとサービスの質の向上に活かしている。法人主催で多彩な芸能人を招いたイベントが年間を通して開催され、利用者が楽しい時間を過ごす機会を設け、生き甲斐の一つとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での主な課題である「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」、「現状に即した介護計画の見直し」については改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」については、過去1年間に1回の開催であり、内容は事業所からの報告のみとなっており、参加者と討議する機会となっておらず、改善されていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や全職員は評価の意義を理解し、自己評価作成に取り組み、サービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は過去1年間に1回開催し、利用者や家族、民生委員、市町村職員、地域包括支援センター職員、法人関係者、職員が参加している。内容はホームの行事や運営について報告を行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を玄関に設置し、外部の苦情申立機関を明示している。家族は毎月来訪するため利用者の近況やホームの日常について話し合っている。日頃から面会に訪れる家族も多く、気軽に相談や苦情が言える環境づくりがなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地区の祭りの際には御輿が来ている。また地元中学生の体験学習や消費者協会の見学を受け入れている。地域の清掃活動に参加し、近隣住民との交流が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は前回評価後に管理者と職員が話し合って見直し、地域密着型サービスの目的を盛り込み、事業所独自に新たにつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日々の朝礼時に唱和したり、新しい職員には説明したりして共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地区の祭りの際には御輿が来ている。また地元中学生の体験学習や消費者協会の見学を受け入れている。地域の清掃活動に参加し、近隣住民との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は評価の意義とねらいについて話し合い、取り組んでいる。自己評価や前回評価での課題等は全職員で協議し、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市町村職員、地域包括支援センター職員、法人関係者、職員が参加している。しかし、開催頻度は過去1年間に1回であり、2か月に1回となっていない。また内容はホームの行事や運営についての報告にとどまり、参加者間での話し合いの場とはなっていない。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。また参加メンバーと話し合う機会を持ち、運営に反映されるよう取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告を町の担当者に持参して報告したり、ホームの現状や考え方を伝えたり意見交換するなどし、連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりなどは、2か月に1回発行するホーム便りで知らせている。毎月の来訪時に健康状態や職員の異動、新規採用職員の紹介などを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、外部の苦情申立機関を明示している。家族が毎月来訪したときに、利用者の近況やホームの日常について話し合っている。日頃から面会に訪れる家族も多く、気軽に相談や苦情が言える環境づくりがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援が行えるよう担当制にしている。新しい職員が初めて接するときには、馴染みの職員が付き添うなど工夫し、利用者への混乱を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画があり、外部研修に加えて内部研修が充実している。法人内で2級ヘルパー講座を開講し、職員の資格取得に向け支援している。研修後は報告書にて周知し、情報の共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入している。職員が認知症介護実践者研修や研修等で知己となった同業者と相互交流を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員が自宅を訪問したり、利用者や家族に事業所を見学してもらったりし、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はホームで利用者と暮らす時間が長く、共に暮らす家族という認識をもっている。利用者から詩吟や昔話を聞くなど、共に学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の会話などから利用者の思いや意向の把握に努めている。意思確認が難しい場合は家族に相談するなどして、本人が望んでいることを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日々の状態等を記録し、気付きや変化に関係者間で共有し、話し合いながら介護計画を作成している。計画書には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直し作成している。職員は日常の気付きを記録し、状態の変化時などには家族や担当医、職員間で話し合い、介護計画に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、健康管理に利用者や家族の安心に繋がっている。また利用者の外泊時に家族の相談に乗るなどしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診に加えて、法人内での連携により、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、利用者や家族等必要な関係者間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の採用時に秘密保持の誓約書を交わし、個人情報の取り扱いを徹底している。また研修や会議では利用者の尊厳やプライバシー確保の重要性を伝えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋で食事をとってもらったり、ゆっくり起床してもらったりするなど、利用者一人ひとりのペースを大切に、状況に応じた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成し、一人ひとりの体調や嗜好に配慮し、おかゆや代替食を作るなど細やかな支援を行っている。また食事作りを手伝ってもらうなど、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて入れるよう支援している。また入浴を嫌がる方には、言葉かけのタイミングや対応する職員を変えて誘うなど、気分良く入ってもらえるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力に応じて掃除や食事作りなどの役割を持ってもらっている。習字や貼り絵、折り紙、生け花、誕生会、田園パークへの外出、畑での野菜作りなど楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。また法人主催のイベントが多く開催され、利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩が好きな利用者には毎日出かけられるよう支援している。また近くの田園パークへの散歩や買い物に出かけるなど、希望にそった外出をできる限り支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけず、見守りで対応し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、防火避難訓練を実施している。消火器の扱い方も訓練している。緊急連絡網はわかりやすいところにあり、日頃からシミュレーションされている。緊急時の食料品等備蓄もされ、期限切れ等の確認もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、食事摂取量を記録して適切な栄養を確保できるよう支援している。しかし、水分の摂取に関しては確認が行われていない。	○	一日の水分摂取量を記録されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と兼用の共有空間は日当たりが良く、採光を調節している。テレビ横の大きな本箱には利用者が作った手芸品や本が並び、窓際のソファーにはその日の新聞が置かれる等、家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く清潔な各居室には洗面台があり、またテレビや植物、ぬいぐるみ、机など利用者の好みの品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮している。		